

Special Needs Education Research Center

## SNERC通信

(第41号—2016年5月)

国立大学法人 筑波大学  
特別支援教育研究センター  
センター長：岡 典子

〒112-0012 東京都文京区大塚 3-29-1

TEL&amp;FAX：03-3942-6923

HP：<http://www.human.tsukuba.ac.jp/snerc/>mail：[snerc@human.tsukuba.ac.jp](mailto:snerc@human.tsukuba.ac.jp)

## ■巻頭言 「歴史を学ぶ，歴史に学ぶ」

筑波大学特別支援教育研究センター長 岡 典子

本年4月より，特別支援教育研究センター長を務めさせていただくことになりました。どうぞよろしくお願いいたします。

今年度からいよいよ第3期中期目標・中期計画の期間が始まり，大学でも附属学校でも，これまで以上の成果が明確に求められる時期に突入しました。とくに，研究センターとして位置づけられている本センターには，従来以上に学際的で横断的な研究の推進が求められています。また各附属学校に対しても，全国の大学・附属学校とのコンソーシアムの構築や，グローバルな素養を育てるカリキュラムの開発・提案，「筑波型インクルーシブ教育システムを目指したプログラム」の開発など，よりダイナミックな実践と研究の成果が期待されています。こうした成果を出していくためには，本センターと附属学校はもちろんのこと，障害科学域をはじめとする大学・人間系の先生方や学内外の組織等，より多くの方との協力関係が欠かせません。厳しい時代を乗り越え，日本の特別支援教育の到達点を世界に発信し，さらに次代の日本へと引き継いでいくためにも，どうか今まで以上のご協力を賜りますようお願いいたします。



さて，すでにご承知のように，日本では今，インクルーシブ教育システムの構築に向けてさまざまな取り組みが行われている最中です。本学が第3期中期計画に掲げている前述の「筑波型インクルーシブ教育システムを目指したプログラム」開発もまさに，本学と附属学校の協働による日本のインクルーシブ教育システムの先導的モデルであり，日本のインクルーシブ教育システムを牽引していく手段として期待されています。けれども，そもそも障害のある子どもと障害のない子どもがともに学ぶというインクルーシブ教育の思想自体は，いつごろ生まれたものなのでしょうか？

ヘレン・ケラーの師サリバンの学んだ学校としても知られるアメリカのパークキンス盲学校で初代校長を務めたS.G.ハウは，今から160年以上前，すでに，視覚障害のある子どもにとって最善の教育は，障害のない子どもとともに学ぶことだと考えていました。彼の先見性は，単に，「一緒に学ぶ」ことだけを重視したのではなく，障害に即した専門性を担保しつつ共に学ぶ方法を構想していたことや，障害のある子どもと障害のない子どもと一緒に学ぶことの最大の意義を，社会の変革に見出していた点にあります。これらはいずれも，現代のインクルーシブ教育にもそのままあてはまる考え方です。

「古きを温めて新しきを知る」とは孔子の言葉ですが，特別支援教育の分野で私たちの先達が残してくれた思想や方法論には，じつは私たちがイメージしている以上に先進的で，決して「古く」などなっていないものがたくさんあります。時に，こうした歴史上の大先輩たちにも「助言」を求めつつ，やがて次の世代を担う人々から，私たち自身もまた「豊かな歴史」として評価してもらえるよう，日本の，そして世界の特別支援教育を育てていくことが，今を生きる私たちに課せられた役割といえるでしょう。

## ■センタースタッフ紹介

センター長をはじめ以下のスタッフで運営していきます。よろしくお願いします。



### 柘植 雅義（障害科学域）

センター勤務，3年目となりました。知的・発達・行動障害学分野に所属しています。東京キャンパス，筑波キャンパス，そして，附属大塚特別支援学校の3つの業務を楽しんでいます。



### 左藤 敦子（障害科学域）

教材・指導法のデータベースが公開中です。データベースを通して，多くの附属学校の先生方との新しい出会いを期待しているところです。文京校舎へお越しの際には，4Fまで，ぜひ，足をのばしてください。



### 粟仙有実子（附属視覚）

4月よりセンターへ参りました。視覚障害はもちろん，さまざまな視点から特別支援教育に関する業務に励んでまいりたいと思います。視覚障害から他の障害へも役立つことを探し，伝えられるようになることが目標です。



### 深江 健司（附属聴覚）

附属聴覚特別支援学校の深江です。慣れない業務を仲間にかけてもらいながらやっているような状態ですが，現場（附属特別支援学校）に役立つような仕事ができればいいなあと思っています。



### 阿部 崇（附属大塚）

センター勤務3年目になります。教材・指導法データベースが4月に開設され，これからその質・量が問われてきます。皆さんのお力を借りながらより充実したデータベースにしていきたいと思います。今年度もよろしくお願いします。



### 田丸 秋穂（附属桐が丘）

今年度よりセンター勤務となりました。教材教具・指導法データベースの充実や連携研究を通して附属間がさらに近づくよう，つなぐ役ができたと思います。どうぞよろしくお願いします。



### 小曾根和子（附属久里浜）

主に，現職教員研修事業を担当します。研修のお手伝いを通して，附属の実践とその良さを伝えていきたいと思います。また，附属特別支援学校の先生方のお役に立てる事業も模索したいと思います。



## ■センター年間予定

7月25日(月)～8月5日(金)  
9月15日(木)  
11月中旬～12月上旬  
12月3日(土)  
3月9日(月)  
3月27日(月)  
5月・6月・9月・10月・12月

平成28年度免許法認定公開講座  
現職教員研修生中間報告会  
JICAアフリカ 附属学校訪問  
センターセミナー  
現職教員研修生最終報告会・修了式  
センターセミナー  
5附属連絡会議（附属学校を会場に開催）

## ■ 3月セミナー報告

3月28日(月)にセンター主催セミナーを開催しました。5回目となる「シリーズ特別支援教育の進展」に、100名もの参加をいただきました。



第一部では、連携研究の最終報告があり、食育(大塚・桐が丘)とタブレット端末を活用した教材(大塚・桐が丘)、2題の発表がありました。継続的に実践を行うことの重要性と成果が示された内容でした。第二部では、附属特別支援学校5校の先生方に、データベースで紹介されている教材を用いた授業実践を発表していただきました。教材作成者ご本人による実物や動画を用いた発表に、参加者からは「実際使っている先生からの発表で使い方や成果がよくわかった」、「使い方(教材研究)の大事さを感じた」、「指導方法の基にある考え方がわかってよかった」、「授業で使ってみたい」などの感想をいただきました。

## ■ データベース事業

平成28年4月1日に、教材・指導法データベースがようやく一般公開を迎えました。この事業は、附属学校の専門性の高い教育

特別支援教育研究センターと附属特別支援学校5校の協働による  
筑波大学 特別支援教育 教材・指導法データベース

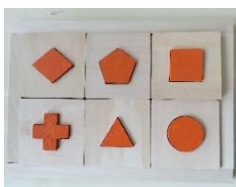
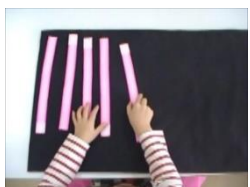


<http://www.human.tsukuba.ac.jp/snerc/kdb/>

実践を広く発信し特別支援教育に貢献することを目的として、平成24年度から大学、センター、附属特別支援学校5校が協働して取り組んできたものです。多くの先生方から教材や指導法の提供と検討会議への参加をいただき、300を超える教材が紹介されるデータベースとなりました。改めてお礼を申し上げます。是非、ご覧になっていただきご意見をお聞かせください。

一足早いお披露目となったセミナーでは、「カテゴリーなどの分類や設定が分かりやすかった」「画材や文具、デザイン等を専門とする会社から見ても、特別支援教育に使えるものが見つかった」「動画を載せてほしい」「具体的な指導事例や他障害での活用事例を紹介して欲しい」「教材の数を増やすことが必要」「意見や感想を反映させて改善を加えて欲しい」「データベース事業の今後の見通しを明確に示して欲しい」など、沢山のご意見をいただいています。

今年度は、データベースを多くの教育関係者に知っていただく広報活動、質と量の充実、英語版の作成などを予定しています。今後ともご協力をよろしくお願いいたします。



\*セミナーで発表のあった教材(左から:視覚, 聴覚, 大塚, 桐が丘, 久里浜)

## ■ 附属ニュース (公開講座等 予定)

7月26日(火)～27日(水), 8月1日(月), 8月3日(水)～4日(木)	大塚・公開講座
7月29日(金)～7月30日(土)	桐が丘・自活セミナー
8月2日(火)～8月5日(木)	桐が丘・公開講座
8月8日(月)～8月9日(火)	聴覚・公開講座
8月24日(水)～8月25日(木)	久里浜・公開講座



## ■ 平成 28 年度現職教員研修開講式

4月4日(月)に開講式が行われました。今年度は6名の研修生がセンターや附属特別支援学校、大学で一年間学びます。附属学校では参観や研修会への参加、大学では講義の聴講と一人ひとりの研究テーマに沿ったご指導をいただくなど、お世話になります。どうぞよろしくお願いたします。



氏名	勤務先	指導教員	研修・研究領域
鈴木 紀理子	千葉県立八千代特別支援学校	柘植 雅義	知的障害
西原 数馬	千葉県立市川特別支援学校	柘植 雅義	知的障害
畠山 建	北海道新篠津高等養護学校	米田 宏樹	知的障害
宮澤 晃尚	静岡県立沼津特別支援学校愛鷹分校	小島 道生	特別支援教育
宮嶋 友香理	長野県立稲荷山養護学校	岡崎 慎治	発達障害, 知的障害
米沢谷 将	さいたま市立さくら草特別支援学校	柘植 雅義	発達障害, 知的障害, 自閉症
・前期中地留学生とも、研修を通じた交流・情報交換を行っています。			
稲見 由佳理	茨城県立つくば特別支援学校	川間健之介	肢体不自由
舟生 心	茨城県立水戸特別支援学校	塩川 宏郷	知的障害

### 「連携研究」を募集しています。

附属学校間での特別支援教育に関わる連携研究を助成することを目的として、連携研究を募集しています。筑波大学附属特別支援学校の教員であれば応募することができます。

研究グループには、初年度には20万円、2年度目からは10万円を上限として研究費を支給します。詳細は、センターまでお問い合わせください。

1. 申し込み締切り：平成28年 6月24日(金)  
(採否については7月7日(木)の5附属連絡会議で連絡します。)
2. 問い合わせ先：特別支援教育研究センター  
TEL：03-3942-6923, E-mail：[snerc@human.tsukuba.ac.jp](mailto:snerc@human.tsukuba.ac.jp)

### 「筑波大学特別支援教育研究」第11巻への投稿論文を募集しています。

平成29年4月に発行予定の「筑波大学特別支援教育研究 第11巻」への投稿を希望される方は、センター担当者までお問い合わせください。執筆規定は、センターホームページからダウンロードできます。

1. 申し込み締切り：平成28年 7月 8日(金)
2. 原稿提出締切り：平成29年 1月 5日(木)
3. 問い合わせ先：特別支援教育研究センター 氣仙 有実子  
TEL：03-3942-6937  
E-mail：[kesen@nsfb.tsukuba.ac.jp](mailto:kesen@nsfb.tsukuba.ac.jp)
4. センターH.P.：<http://www.human.tsukuba.ac.jp/snerc/>

